

科目ナンバー： 研究・CNS：MC6122

授業コード： 7030601200

講義科目名称： がん高度実践看護学実習Ⅳ

英文科目名称： Advanced Clinical Practice of Cancer NursingⅣ

| | | | |
|---|-----|-----|--------------|
| 開講期間 | 配当年 | 単位数 | 科目必選区分 |
| 前期 | 2学年 | 2単位 | 選択 がん看護CNS必修 |
| 担当教員 | | | |
| ◎石田和子、樺澤三奈子、横川史穂子、石岡幸恵、坂田智佳子、杉山潤、桃井明仁、樋口伸子、浅野暁俊、長崎揚子、三浦一二美、高池和美、岩本舞 | | | |
| 添付ファイル | | | |

| | | | | |
|------|-------------------------------|-----------------|-----------|---------------------------|
| 授業種類 | 【開講】 前期 | 【授業時間】 2週間以上 | | |
| | 【担当教員】 | | | |
| | 【氏名】 | 【所属】 | 【研究室】 | 【メールアドレス】 |
| | ◎石田 和子 | 新潟県立看護大学 | 317 | kazukoi@niigata-cn.ac.jp |
| | 樺澤 三奈子 | 同上 | 318 | minako-k@niigata-cn.ac.jp |
| | 横川 史穂子 | 同上 | 204 | yokokawa@niigata-cn.ac.jp |
| | 石岡 幸恵 | 同上 | 310 | ishioka@niigata-cn.ac.jp |
| | 坂田 智佳子 | 同上 | 共同研究室3 | sakata@niigata-cn.ac.jp |
| | 杉山 潤 | 同上 | 共同研究室3 | junsugi@niigata-cn.ac.jp |
| | 桃井 明仁 | 新潟県立中央病院 | | |
| | 樋口 伸子 | 同上 | がん看護専門看護師 | |
| | 浅野 暁俊 | 同上 | | |
| | 長崎 揚子 | 新潟県立がんセンター新潟病院 | がん看護専門看護師 | |
| | 三浦 一二美 | 長岡中央総合病院 | がん看護専門看護師 | |
| | 高池 和美 | 長野市民病院 | がん看護専門看護師 | |
| | 岩本 舞 | 愛和病院 | がん看護専門看護師 | |
| | 【本学の科目区分】 専門分野 | | | |
| | 【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 | | | |
| | 研究 | | | |
| | CNS | ◎ | ○ | ○ |
| | 助産 | | | |

| | |
|------|--|
| 到達目標 | 1. がんの進展や治療に伴う苦痛を抱えている患者に対して、キュアとケアを融合した支援を実施することができる。 2. がんの治療、経過、状況・場面における苦痛緩和のための症状コントロールと、治療を遂行するために必要な医師と協働する医療処置について、卓越した判断に基づくケアを実施することができる。 |
|------|--|

| | |
|------|---|
| 授業概要 | がんの進展またはがん治療を受けている患者の身体症状や有害事象に対するアセスメント能力、高度な臨床判断能力を身につけ、治療の遂行や適切な症状コントロール（主に呼吸器・消化器症状）の支援ができるよう、がん治療医のもとで実習を行う。 |
|------|---|

| | |
|------|--|
| 授業計画 | 2週間以上 授業内容 授業形態：実習 学修課題：がんの進展や治療に伴う苦痛緩和のための高度な症状コントロール（主に呼吸器・消化器症状）能力と臨床判断能力を養う。また、症状コントロールのために必要な、医師と協働して行う医療処置の判断能力やケア能力を習得する。 学修内容 ：1. 治療を受ける患者の心と体を整える支援を行う。 2. がん患者の苦痛緩和に関わる身体管理と治療遂行支援を行う。 3. がん薬物療法に関わる身体管理と治療遂行支援活動を行う。 4. 医学的根拠や臨床判断に基づいた医行為の実施を強化する活動を行う。 【臨床での実習時間】 2週間以上（90時間） 【実習場所】 新潟県立中央病院 新潟県立がんセンター新潟病院 長岡中央総合病院 長野市民病院 愛和病院 【実習方法】 ・4～5日／週の割合で実習施設に行き、実践する。 ・フィジカルアセスメント、検査指示、治療計画や必要な医療処置について、担当医師からスーパーバイズを受けながら実習を行う。 ・実習記録をまとめ、教員に提出し指導を受ける。 |
|------|--|

| | |
|-----------------|--|
| | <p>事前学修：・専門看護師としての役割と看護実践に関わる既修の科目を復習する。 (特に病態生理学、臨床薬理学、フィジカルアセスメント、看護倫理特論、看護コンサルテーション論、がん看護学特別演習Ⅰ・Ⅱ、 かん治療看護介入演習Ⅰ・Ⅱ)</p> <p>事後学修：・実習での学びについて、カンファレンスでの助言をもとに文献を活用して疑問の解決を図る。</p> <p>備考：石田 樺澤 横川</p> |
| 事前・事後学習 | 授業計画参照 |
| 評価方法、評価基準 | <p>1. 評価対象 (得点配分) 到達目標1～3に対し、以下の得点配分により総合的に評価する。 ・がん看護学実習 (高度看護実践) の目標達成度 (40%) ・記録、レポート・課題分析能力 (20%) ・カンファレンスでのプレゼンテーション (30%) ・実習準備、実習態度 (10%)</p> <p>2. 評価方法 自己評価および実習指導者からの他者評価を総合した各実習評価表に基づき履修生と面接を行い、目標達成度、記録およびレポート・課題分析能力、実習準備・実習態度について、評価基準をもとに評価する。</p> <p>3. 評価基準 実習要項に掲載した各評価基準に基づく。評定は、A(90点以上100点)・B(80点以上～90点未満)・C(70点以上～80点未満)・D(60点以上70点未満)・F(60点未満)の5段階である。</p> |
| テキスト | 最新の文献を使用するため、現時点では指定せず授業内で案内する。 |
| 参考図書・資料等 | 必要時提示する。 |
| 受講、課題、資料配布等のルール | 詳細については実習要項を参照する。 実習Ⅳを履修する場合は、実習Ⅰ～Ⅲを履修し、単位認定されていることを条件とする。 長期履修生の場合、実習時期は相談に応じて行う。 |
| 教員からのメッセージ | 主体的な自己学修を期待する。 |
| オフィスアワー | 石田、樺澤、横川が窓口となり対応する。事前にメールで連絡する。 |